

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (R 2 - 2 1 号)

令和2年11月6日

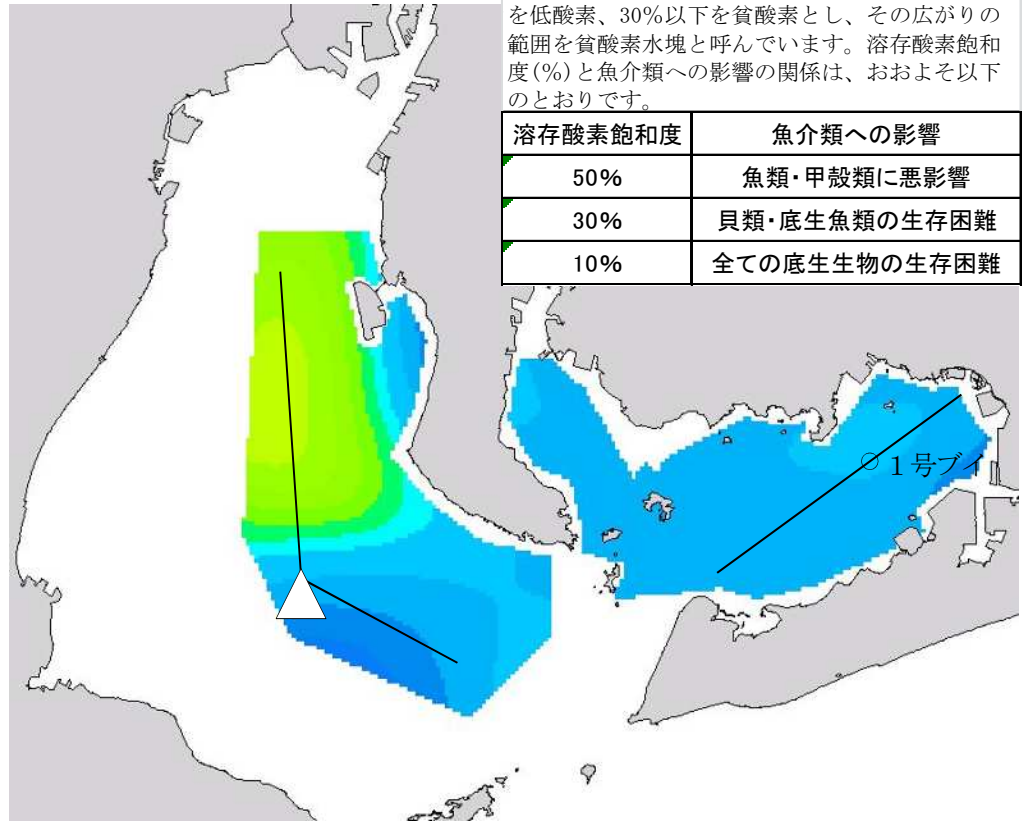
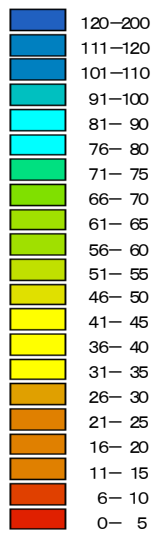
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和2年11月2日に伊勢湾、11月4、5日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素とし、その広がり範囲を貧酸素水塊と呼んでいます。溶存酸素飽和度(%)と魚介類への影響の関係は、おおよそ以下のとおりです。

溶存酸素飽和度	魚介類への影響
50%	魚類・甲殻類に悪影響
30%	貝類・底生魚類の生存困難
10%	全ての底生生物の生存困難

溶存酸素飽和度(%)



伊勢湾奥

湾口

三河湾奥

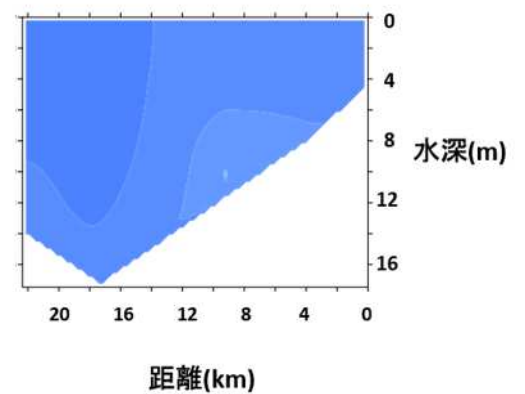
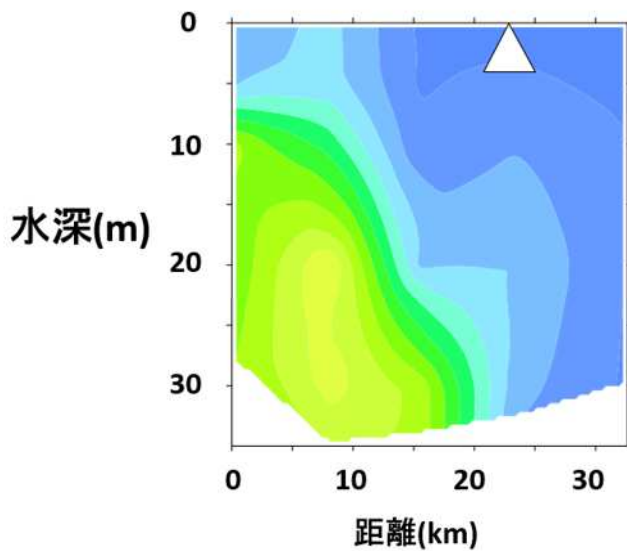


図1 伊勢湾(11月2日)、三河湾(11月4、5日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「へいわ」調査)

### 伊勢湾

11月2日の調査結果を図1に示しました。前回調査では伊勢湾奥部及び湾中央部の西側で貧酸素水塊が確認されましたが、今回の調査では、愛知県側のみの調査ですが、貧酸素水塊は確認されませんでした。

湾奥側は塩分格差が解消しておらず海水の上下混合はまだ起きにくい状況にあります。湾口側は外海水との海水混合が進んでおり貧酸素水塊が発達する可能性は低いと考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	19.5~21.3	29.7~31.8
底層	17.9~23.3	31.0~33.4

### 三河湾

11月4、5日の調査結果を図1に示しました。前回調査では三河湾の一部で貧酸素水塊は確認されましたが、今回の調査では、貧酸素水塊は確認されませんでした。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）でも、貧酸素水塊は観測されませんでした（図2）。

表底層間での水温・塩分格差がほとんどなく、上下層の海水がほぼ混合している状況となっていました。今後は、貧酸素水塊が発達する可能性は低いと考えられます。今年度の三河湾の貧酸素情報は今回で終了します。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	16.5~20.6	29.6~32.3
底層	16.6~21.1	29.6~32.7

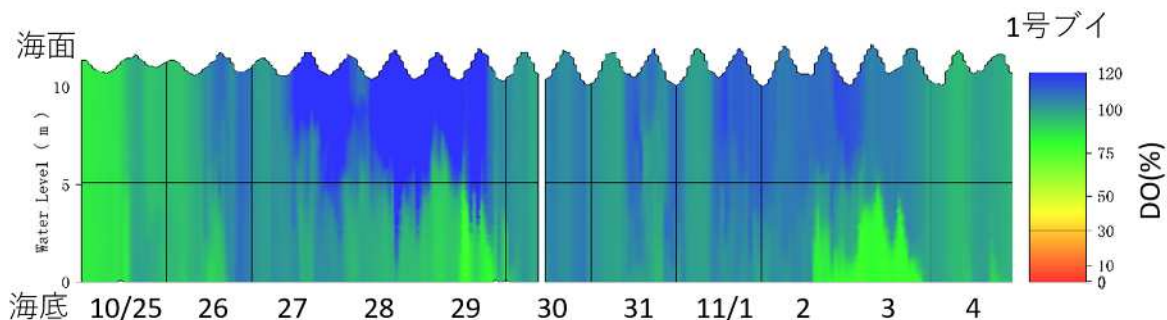


図2 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ）

### 参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況（図3）

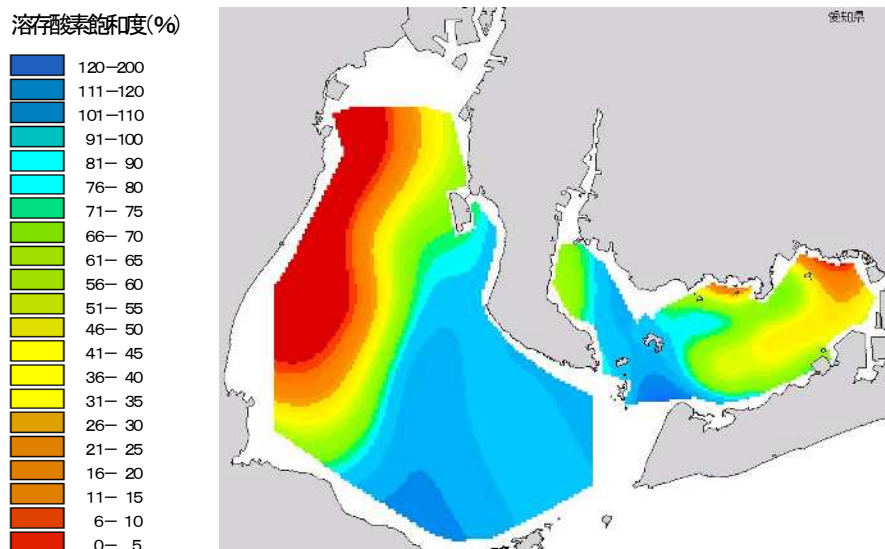


図3 令和2年10月26、27日（伊勢湾）、10月21、22日（三河湾）